

Noisette Press

ノアゼット

現地在住ライターがリアルなパリをお届け

Apr. 2025
Numéro 135

4



HANAMI in Paris photo by Saori

祝! podcast 2周年!

編集長吉野 × トモクン対談

仏に住んだ気になれるポッドキャストって!? テキトーだけど、楽しい収録話

本誌ライターでファッションジャーナリストであるトモクンこと清水友顕と、ノアゼットプレス編集長の吉野がタッグを組んでお送りしているポッドキャスト「カフェノアゼット」が開始から2周年を迎えました。今回はポッドキャスト収録の魅力や、苦労を聞いてみました。



収録中にネット検索するのはなぜ?

◆ポッドキャスト2周年おめでとうございます!

吉野 ありがとうございます。2022年の10月スタートなので、もう2年半過ぎてはいるんですね。一応月に2回くらい更新していますね!

トモクン すごい! こんな適当でよかったのになって思うけど、意外とみんな聞いてたりするんですね。フランス関係のイベントに行くと、「あ!本物だ!」って僕に近づいてきてくれる方がいて、あんまり気が抜けないなと(笑)。

吉野 Spotifyの登録者がどんどん増えているんですね。[こんなに聞いてる人いるんだ~]っていうふわふわした感じね。

トモクン あんまりガツガツしてないのがいいのかも知れない、僕もあいごさんもね。

吉野 トモクンが面白いし、根底にトモクンの良さもあるからね。

トモクン ううん。そんなこと全然ないよ! 僕だってすごい加減だからね。

吉野 発言した後には間違ってたかもしれないって二人で不安になって話し合ってるところはよくカットしてます(笑)。

トモクン そんな話よくあるから(笑)。だから時々収録中にネットで検索してるわけ。

◆リスナーからの反応は?

吉野 お便りはきてはいるんですね。

トモクン どんな方からきてるんですか?

吉野 そんなにたくさん来ないですけどね(笑)。フランスに行くから、フランスのポッドキャストを探している方が多かったかな。あとは、昔フランスに住んでいた人。フランスの今の話を聞きたい人も多かったかな。

◆まだ聞いたことがない人に、カフェノアゼットの内容を教えてください。

吉野 「フランスに住んだ気になれるポッドキャスト」がテーマです。トモクンはパリ在住30年だから、旅行者とは違った視点で、どんなふうにパリが見えてるのかという話を聞きつつ、その目線をリスナーの皆さんにも楽しんでもらおうと。

トモクン それ、僕ありきじゃん! 知らなかった、そのコンセプト(笑)。

吉野 知らなかった?(笑)。トモクンが忙しかったときは、ノアゼットプレスでも連載してくれているマダム愛さんもゲストに来てくれましたね。

パリの街中へ飛びだす これからのカフェノアゼット

◆番組内のコーナー「日本で使われてるフランス語、本当はどういう意味?!」は誰が選んで?

吉野 あれはトモクンが選んでます。言葉の半分くらい、私は知らないです。

トモクン 僕もあんまり分かってないこともあって、調べたらこういう意味なんだと。

吉野 アバンギャルド、ブルジョワとか、シルエツト、アプリケ、ソバージュとかね。これはトモクンのフランス語と、ファッションの知識が混ざり合ってる。面白かったのはメゾンかな。高級ブランドのことをメゾンって呼ぶことがあるんだけど。本来はどういう意味なのかを聞いたの。

トモクン ○○家、みたいな意味ですね。会社っぽいものという意味もあるんだと思います。ファッション関係では、ソシエテ(会社)ではなくて、メゾンって絶対言う。特別な言い方ですね。最近ではレストランやパティスリーなんかの食関係の人たちも使ってる。

◆なるほど! ポッドキャストならではの魅力って

何でしょうか?

トモクン 半分ラジオみたいで、何か作業しながら聞けると言ってもらったこともありますね。

吉野 私は本当にリスナーの気持ちで、トモクンの話を楽しんでいる感じ。フランス語の勉強にもなるし、パリコレとか、ファッションの話が定期的にあって、見方を教えてもらったのが個人的には楽しい。

◆苦労したことは?

トモクン 日本語化したフランス語を探すのも結構苦労してる。

吉野 私は、初めトモクンの話を20分の番組にまとめるのが大変だった! リスナーである友人に「ポッドキャストはだらだら聞くんだから、長いほうがむしろいい!」と言われてから60分を目安にしよう。1時間番組を編集するのに、倍くらいかかるし、本当に楽しくなっちゃうと3時間とかかかるかな。

トモクン まあ、無理のない程度に! 編集好きだったらいいけど。

◆今後どうしていきたい?

トモクン パリ全20区について1回1区ずつ話していけたのはとてもいいアイディアだったなと思っていて、また10年後にやってもいいかなと思ってる。

吉野 ちょうど20区分終わったんですね。次の企画どうしようね。

トモクン ちょっと家の外に出ちゃうのもいいかな。

吉野 いいじゃん! トモクンの友達めぐりしようか。トモ散歩だな。街ブラでもいいし。

トモクン 大変なことになりそう!

URL <https://creators.spotify.com/pod/show/cafenoisette/>



毎週土曜日あさ9時30分から、テレビ朝日で放送。tv asahi



食材ひとつに、多彩なドラマ。
毎週土曜日に放送中の「食彩の王国」は、身近な「食材」たちが主役。さまざまな食材が織りなす食文化の歴史や産地の風土…。そこに流れる時間をひも解くことで、人と食材のかかわりを探っていきます。

食彩の王国

語り 冨永九子

番組ホームページ www.tv-asahi.co.jp/syokusai

制作 tv asahi テレビマニオン(ViViA)) [企画協力] ビデオプロモーション 提供 TOKYO GAS

マダム愛の わたくし ミシュラン

第135回

日本大好きな人気シェフによる日仏アフリカ融合料理が楽しめるレストラン

フランスでとても有名なTV番組《TOP CHEF》。その番組で挑戦者として参加し、その才能をフランス全土に見せつけた若いシェフ Mory Sacco。彼が自身のレストランをOPENしたのは2020年のことで、瞬間に大人気になりました。すぐにミシュラン1つ星を獲得し、5年経つ今も予約が取れないレストランとして有名です。私も何度も挑戦してやっとキャンセルが出たので、すぐに予約を入れて友人と2人でランチをしてきました。

セネガルにルーツを持つシェフが生み出すのは、西アフリカ×フランス×日本、なんと3つの国が融合した新しいお料理。特に和のテイストが強く、お出汁もたくさん使っています。

例えば、この日頂いたお料理の1つは温泉卵。お出汁の中にあるのは日本風だけど、そこに少しスパイスが効いたジュレがうっすらと。鯖の押し寿司には、ハーブのソースとアボカドとワサビのムースが。かと思えば、トムヤンクンの様な濃厚なスパイスがきいたスープが登場。見た目にも

楽しく、そしてその見た目からは想像がつかない味を楽しめるのです。

彼の日本愛はレストランの名前にも現れています。アフリカ人で初めて、そして唯一サムライになったYASUKEからSUKEをもらい自分の名前 Moryと合わせMOSUKEにしたんだって! なんだか嬉しいわ。

兎にも角にも、彼の作る独創的なお料理は運ばれて来るたび、口に入れるたびに驚きの連続で最初から最後まで楽しめますよ。日本では絶対に試せない、彼だから作れるフレンチをパリで堪能してみたいかがでしょうか?

- A. モダンではあるけれど温かみもある店内は居心地抜群です。
- B. 温泉卵であって日本人の私が知っている温泉卵ではなかった。表面に美しい出汁のジュレがのっています。
- C. OSHIZUSHIという名前でサーブされたのは本当に鯖の押し寿司! でも、お野菜たっぷり、ムースも添えてあり、さらにはハーブのソース付きで、想像の何歩も上を行くお味でした。
- D. こちらのスペシャルティの超濃厚スープ。中にお魚や穀物も入っていて、飲み進めば進むほどなんだか癖になるお味です。

今月のハート

料理 ♥♥♥♥♥
ドリンク ♥♥♥♥♥
サービス ♥♥♥♥♥
雰囲気 ♥♥♥♥♥
コスバ ♥♥♥♥♥

MOSUKE
11 rue Raymond-Losserand, Paris, 75014, France
0143202139
<https://mosuke-restaurant.com/>

writer **マダム愛**
東京で知り合った仏人男性に連れ去られ、気が付けばパリジェンヌとやらに。パリのレストランと生活、2つのブログを書いています。

blog **マダム愛の徒然パリ日記**
<http://www.paris777.blog.fc2.com/>

blog **マダム愛のアパートの鍵貸します**
<https://www.madameai.com/>



新連載 パリに暮らす猫パリにゃん・リリちゃん & ゴキゲン指揮者キョーリのほのぼの生活

パリにゃん通信

春到来!

い よいよパリに春が来た! 今日は晴天で気温も18度。今シーズン初、お庭に出てランチを食べた! 食後は、昨夜焼いたショートブレッドとコーヒーを飲みつつ長椅子に寝そべて太陽をいっぱい浴びる。あ〜何たる幸せ!(ここはフランス。私はもう日焼けは怖くないのであります(笑))。旦那さんが私が大好きな春の花、ミモザを買って来てくれたのでリリちゃんとパチリ。可愛い〜♡ こんな何てことのない平凡な日常こそ私の幸せ。大切な家族、大好きな仲間達と笑って歌って大切な時間を過ごせたら、これ以上の幸せってやっぱり私には思いつかないなあ。さあ、今日もリリちゃんのご機嫌に過ごすご!

writer **押田杏里**
日仏混合アマチュア合唱団「パリ・アブリコ合唱団」を主宰する指揮者。パリで猫のリリちゃん旦那様と「今を生きる」をモットーに暮らしています。Instagram @abricotp

編集部弾丸ツアー

おすすめのパリ

2025 **パレロワイヤル編**

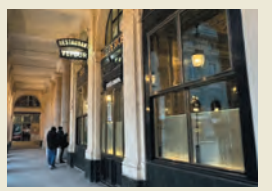
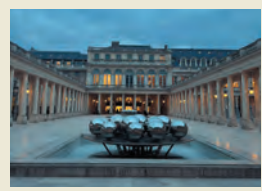
2025年春、行ってきました! 編集部が見つけた今のパリを少しだけお伝えします♪

オペラガルニエから日本食街を抜けて、日本の本が買える「パリジュンク堂」でお買い物した後は、パレロワイヤルへ。ここはかつての王宮で、劇場やブティック、並木やベンチもあり、パリの中心にもかかわらず、静かな雰囲気もある場所。一面に並ぶ白黒の柱に子どもたちは大興奮。

散策に疲れたら、映画「ツーリスト」でアンジェリーナ・ジョリーの行きつけだったカフェ「ル・ヌムール」で休憩できます。久々にカフェノアゼットを注文。カフェノアゼットとは、パリのカフェにあるエスプレッソに泡立てた牛乳をちょこっと加えたドリンクで、色味がヘーゼルナッツ(フランス語でノアゼット)色に

なることからこの名前がついたとか。本誌もここからお名前をいただきました♪ 子どもにはホットチョコレートを注文。アルコール入りなしがあるのでウェイターおじさんにアルコールなしを頼んだけど、「アルコールたっぷりでございまーす」ってふざけながら出してきて、子どもが激しく動揺! ゴキゲンなウェイターおじさん、パリに帰ってきた感じがします!

- Place du Palais Royal** (パレロワイヤル)
Place du Palais Royal 75001 Paris
- Le NEMOURS** (ル・ヌムール)
2 à 7 Galerie de Nemours 2 Place Colette 75001 Paris Instagram @lenemoursparis
- Librarie japonaise JUNKU** (パリジュンク堂)
18 Rue des Pyramides 75001 Paris



とびこめ! ミュゼのとびら

今更聞けないフレンチアート

貴族の邸宅へ遊びに行こう!

パリにある美術館博物館の数は、大小合わせて130を超えられています。代表的なルーヴル美術館、オルセー美術館だけじゃない、個性的で、魅力的な“ミュゼ”を紹介していきたいと思います。

今回紹介するのは、カルナヴァレ美術館。現在では若者の集うおしゃれな街、マレ地区に位置し、最寄駅はメトロ1号線サンポール駅。近くにはヴォージュ広場、ヴィクトルユゴー記念館など歴史的な名所もあります。

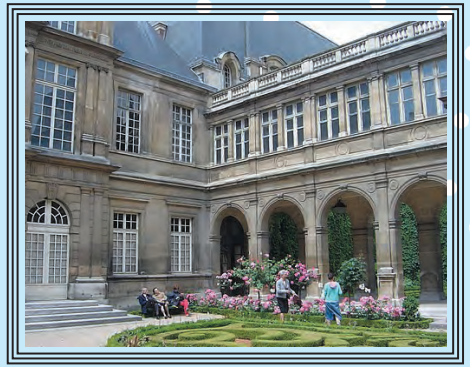
マレは、フランス語で沼地という意味。かつてこの辺りはその名の通り湿地帯でしたが、12世紀に開発が進み、16世紀中ごろフランソワ一世、アンリ二世の治世には、貴族がこぞって、オテルパティキュリエ (Hotel・Pateculier)、と言われる

Musée Carnavalet カルナヴァレ博物館 パリ

<https://www.carnavalet.paris.fr/>

個人邸宅を建築し賑わいを見せました。その後、貴族の建築ブームはフォーブルサンジェルマンへと移るのですが、16世紀にできた立派な建物は現在も残り、様々な形で引き継がれ活用されています。

カルナヴァレ美術館もその一つ。16世紀に建設されたルネサンス様式の貴族の邸宅と、隣り合う17世紀に建設されたもう一つの邸宅で構成されています。別名パリ歴史博物館とも言われ、パリの先史時代から現代の歴史を重要な美術品と共に辿ることができます。部屋ごとに各時代の特徴を表す装飾もなされていて、それを見るのも楽しみの一つです。狭い入り口からは想像出来ない、光の差日混む開放的な中庭もおすすめで、天気の良い日には一日そこで居座りたくくなります。休日にのんびり鑑賞できるそんな美術館です。



writer 妹尾優子

仏語教師の傍、仏文学朗読ラジオ「Lecture de l'après-midi」の構成とナレーションを担当。美術史 & 日本史ラブ。日仏の文学からアートまで深掘りする日々。

HP <https://note.com/tabichajikan/md750819c9bc7>

仏人添乗員リラの

日本リラ散歩



フランス流のお餅

スーパーで見かけた子ども服

日本ブーム

刺観光による問題が定期的にニューストピックに上がっている中、コロナ前の数字を上回って訪日客数が過去最高を記録している日本はトレンドな観光先になっている。円安もあり日本の物価がお手頃と感じて、旅行先としてフランス人の中でも人気が高まっているようだ。

2011年初めて訪日した頃は、実家の田舎町で「日本に行く」と言ったらまだわりとレアものだったけど、今家族と話していると「最近薬局の店員が行ってきたよ、〇〇さんも行く予定だ」と、しゅっちゅう誰かしら知っている人が日本旅行をしている。若者だけでなく、家族や年寄まで行っているようだ。日本のお土産話をして、やっぱり口コミ効果もあるのかも。

前から日本文化が人気だったけど、今年フランスに帰った時、昔より日本関係のものをあちこち目にするようになって驚いた。普通のスーパーの洋服コーナーで日本語が書かれている子ども服を売っていたり、日本を紹介する雑誌も何冊並

んでいたり、いろんな味の冷凍お餅を売っていたり……こんなこともあるのかとつい写真をたくさん撮ってしまった。

昔カフェのメニューになかった抹茶は、世界的な健康志向トレンドとSNSの影響で海外でも普及し、今専門ショップまでオープンしている。

また食に限らず、より幸せで自分らしい人生を探し求める人が多くなっている今の時代。近藤麻理恵さんの本で話題になった、ものを手放す・片づけるメソッドや、沖縄などにおける長寿の秘訣を調査していた外国の研究者によって世界に広がった「Ikigai (生きがい)」の概念も数年前から注目を集めている。単語として訳すことが難しく、海外でそのまま使われている日本語に「Ikigai」もあれば「Karoshi (過労死)」もあって、ちょっと興味深く感じた。

writer リラ

東京で翻訳者としても活躍する30歳のフランス人女子。持続可能な社会の実現に向けての活動もする。趣味は編み物とペランダの植物の世話。

トモクンの

アレコレ、パリコレ、ナンザコレ〜

アイデア枯渇気味のパリコレ それでも出て来る新しいクリエーション

すでに四半世紀以上パリコレを追い掛けていますが、そう簡単に感動しなくなっています。昔のように、絶対に潜り込んででも見たいと思うショーは無くなってしまっただけ。ジョン・ガリアーノが活躍していた時代は、必死に追いかけていた自分がいましたが、それも20年以上前の話です。今のファッションは富裕層とセレブリティ向けのようになっていて、何のためのパリコレなのか良くわからなくなっています。人に夢を与えるメディアだったはずなのに、その存在意義が自分の中で揺らいでしまっているのです。

そんな中、2月末から行われた2025/2026秋冬コレクションでは、「凄い!」と思わせるショーがありました。それは、我が国日本のブランド、森

永邦彦さんのアンリアルエジでした。僕は勝手に『モードの魔術師』と呼んでいて、ブラックライトを当てると反射するドレスや、前回の空気を送り込んで膨らむ空調服ドレスなど、奇想天外なものを披露してくれているのだけれど、今回は飛び抜けていました。直線的なプリントのドレスが、こんな風に突然光ったのです。しかも、元ダフトパンクのトマ・バンガルトの音楽に合わせ、まるで電光掲示板のようにモチーフが変化して二度ビックリ。

これはクリエイティブ集団「MPLUSPLUS」と共同で開発した、LED-LCDテクノロジーが埋め込まれた柔らかい糸と織物を使用しているそう。折りたたんだり、編んだり、縫ったり、ドレープしたり、あらゆる形に仕立てることが可能とのこと。もう凄過ぎます。

こんなとてつもないことをやっているのだから、もっと注目されて良いはずなのだけれど、パリのファッションは政治と密接に絡んでいたりするので、そう簡単には行かないようです。それにしても、海外のデザイナーに憧れてパリまで

やって来たのに、結局は日本人のクリエーションに驚かされている現実を受け入れないといけない……。



writer トモクン

トモクンという名の45歳。在仏27年。ファッションジャーナリスト (業歴17年) は仮の姿で、本当はただの廃品回収業 (業歴5年)。詳しくはブログ『友くんのバリ壺の市散歩』にて。

blog 友くんのバリ壺の市散歩
<http://tomos.exblog.jp>

フランスおバカニュース
トゥールーズの男性が盗難にあったカードで、2人のホームレスがタッチ決済でスクラッチくじを購入、なんと賞金50万ユーロを当てたが立ち去った! 賞金は凍結中で、被害者は犯人に「賞金を山分けしませんか?」と呼びかけて連絡を待っている。



パリジェンヌからニューヨークへ
アラフォー女・怒涛の365日戦争

第13回

初めてのER

朝 4時過ぎ、次女アムがお腹が痛いと言っ
て「これはER行こう」と夫。パジャマ姿のアムにコートを着せて、「いくぞ」と珍しくすごいリーダーシップで、「あいちゃんたちは保険証持って追いかけてきて!」と明け方のニューヨークの空の下へ消えていく夫たちを見送った私。着替えて保険証を持って、寝ぼけたお嬢を連れ極寒の街で「ぎゃーさむいー!」と叫びながら、2本隣の通りにある総合病院に徒歩5分程度で到着。近い。毎日救急車のサイレンがうるさいのを耐えたのはこの日のためだったのかーと噛み締めながら緊急窓口に入ると、先についているはずの若旦那たちがいない。あれ? とウロウロしていると、なぜか遠くからグロまみれの若旦那と車椅子に乗った次女アム登場。隣には「入り口を間違えた」と今にも倒れそうな夫。「仔まみが赤ちゃんだから抱えて連れていけると思ったが、体重はしっかり7歳だった」「抱えている間にグロ吐いた」と、散々だったらしい。受付のおじさんも夫がへばりすぎていて「**ペイシメントはどっち?**」って聞いていた。車いすに乗っている子どもの方です!!

奥の個室へ案内され、2人くらいお医者さんが登場。アムのポニョポニョしたお腹を触って「盲腸じゃないね。てことは胃腸炎かな」「**タイレノール** (めちゃくちゃ売ってる鎮痛剤) と**ペプトビスモル** (めちゃくちゃ売ってる胃腸薬) みたいな薬を飲ませて、様子を見ましょ



◀パリを舞台にしたブロードウェイミュージカル、ムーンルーシュ! 鑑賞。子どもらはハートの花吹雪を拾いまくる。二日後にER。

う) 両方とも家にある薬——。当のアムは病院のトイレでウンコしたら少し楽になったそうで、薬を注射器みたいなものでチューチュー飲んですやすや寝。お医者さんがやって来て「起きたら、これを食べさせて。それで大丈夫なら帰っていいよ」と持ってきたのはジンジャーエールとクラッカー 4袋——。クラッカー多すぎだし、謎のサイズのジンジャーエール冷えすぎだし、**なにより食欲湧かない**。悲しい飲み屋か。フランス人が腹痛のときにコーラ飲むとか言う、民間療法か。入院食が思いやられるラインナップである。

眠りから覚めたアムはすっかり元気に。もらったクラッカーを食べたくないということで、私が持ってきたバナナを食べていたアムをみたお医者さんが「えっ、クラッカーダメ?? **ピーナツバター塗ってこよか?**」違う違うそうじゃない。優しさ痛み入るけど違う。

のこった心配は、お金である。アメリカの救急なんてとんでもないことが起きるのは……? と怯えながら会計すると、保険が効いて清算はなし。ほっ。友達に聞いたところによると、保険によっては個室料だけ取られるとか、まず何十万円も払わされてそのあと払い戻しがあるとか、千差万別らしい。とりあえず、私の入っている保険は救急OKと言うことが分かった。これ、若旦那の出張中に緊急事態が起こるフラグだったらどうしよう。

writer 吉野亜衣子

ラジオ局を辞め、夫の留学についてパリへ。帰国後、日仏文化交流のための NOISSETTE を設立。2022年で設立10周年。2024年春よりNY在住。

HP <https://note.com/noisettepress>

podcast <https://podcasters.spotify.com/pod/show/cafenoisette>

スイーツア・ラ・モード

私を通り過ぎたお菓子たち

10年後も同じ場所にあってほしい

私 がパリ留学1年目に2週間に1度は通っていたお店「**パティスリーヴィエノワーズ**」。オゾン駅から徒歩3分、パリ大学の学舎が集まる人の行き来が多い細い道に、通行人の目を惹きつけてやまない魅力的な焼き菓子が並んでいます。ウィンドウにひしめき合っている、華やかさはないけれど絶妙に美味しそうなお菓子を、訪れる度に1つずつ注文をしては嬉しくなって……。小試験終了のご褒美だ! と決めて1年間通い詰めました。いつも大人気のお店ですが平日の中途半端な時間、10時から12時の2時間を狙ってお店に入ればいたい席は空いていて小さな2人席におさまることが出来ました。先日ふと昔のように同じ時間にお店を訪れてみると常連らしきご近所さん2人、他に外国人旅行者と私だけのゆったりとした時間に。キラキラ可愛いお菓子も大好きだけど! ほっとする味と場所が続くようにこれからも通います★



【Pâtisserie Viennoise】

8 Rue de l'École de Médecine, 75006 Paris
営業時間 / 8h-19h30(土曜日・日曜日定休)

薄い生地にシナモン香る林檎がびっしりの Tarte Viennoise 3.80€

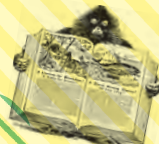
photo by omusubi



writer おむすび

2017年1月からお世話になった誌面と今月号でお別れになります。これからもパリでスイーツを食べて元気にやっています。皆さんÀ bientôt☆

Instagram @OMUSUBI_Food_Paris



▲注射器? みたいなものから直接チューチュー薬を飲むアム。牧場の子ヤギのよう。

◀これ食べたっていう胃腸炎の子もいるかな?

Parisに住んだ気になれる
ノアゼットプレス公式podcast

Cafe Noisette

ノアゼットプレス編集長 Aiko Yoshino
ファッションジャーナリスト Tomoaki Shimizu

住んでみたらこんなだった!

カフェノアゼット

10年分のインタビュー特選集

Noisette Press

- ✦バンドマン、翻訳者、ナチュリスト、居合道の達人!?
- ✦フツのフランス人が一番オモシロイ!
- ✦現地在住ライターのニッチなパリガイドも掲載

『パリに住みたくなったら読む本 - フランス人120人に聞いた赤裸々暮らしナビ』

本体価格1,500円(+税)
ご購入・お問い合わせは info@noisette-paris.net まで!

Amazonサイトでも購入可です

大好評発売中!

英語だって日本語みたいに楽しくしゃべりたい

リアルライフ英会話 for Women

TAS & コンサルティング <http://www.jp-tas.com>

ノアゼット
Noisette Press
プレス

À bientôt!

発行元: ノアゼット東京オフィス <http://www.noisette-press.net/>
編集発行人: 吉野 亜衣子 編集: 小橋 桜子
デザイン: 藤原結花 (yap)